

次世代カラオケ端末構想

選曲端末から「体験OS」へ

カラオケ体験の再定義
端末の役割を根本から変える戦略的提案

PRESENTER

株式会社ラスク企画開発部 中神



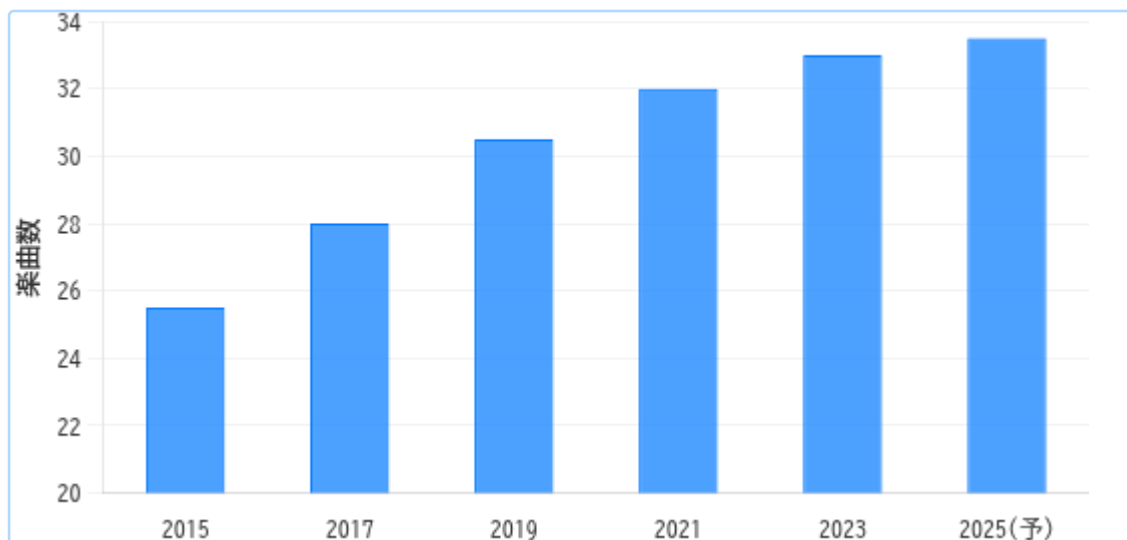
背景：カラオケ業界の現状

現在のカラオケ市場は「成熟」期を迎え、ハードウェア競争は限界に達しています。
楽曲数は数十万曲に達し、採点機能も高精度化・飽和状態にあります。

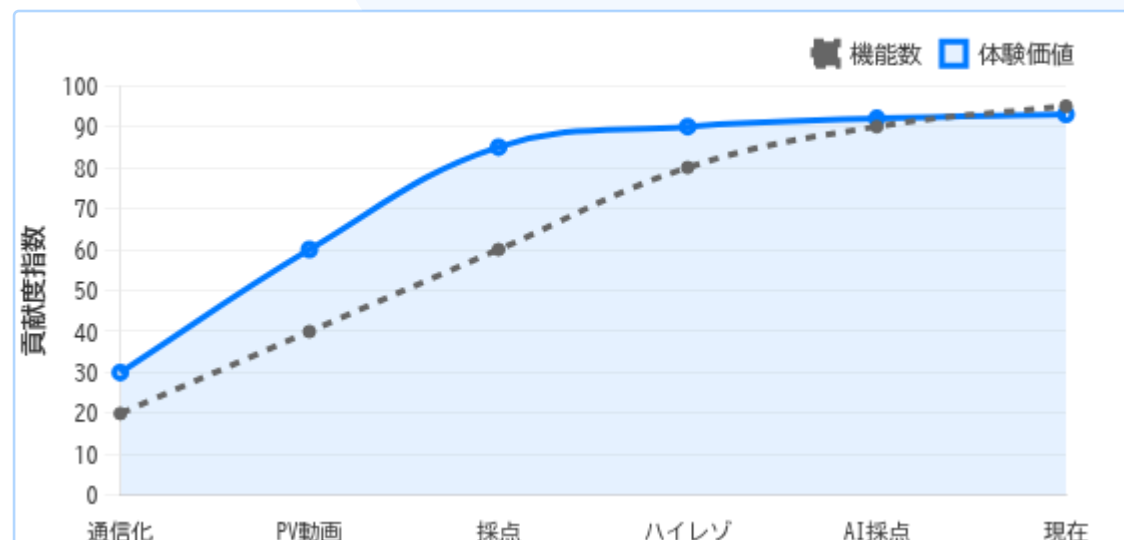
差別化要因が「新曲配信の早さ」や「機種ブランド」のみに偏重しており、**顧客単価や回転率を向上させる新たなドライバーが不在です。**

ハードウェア競争から、「体験競争」への構造転換が急務

配信楽曲数の推移（市場飽和）



機能進化と体験価値の乖離

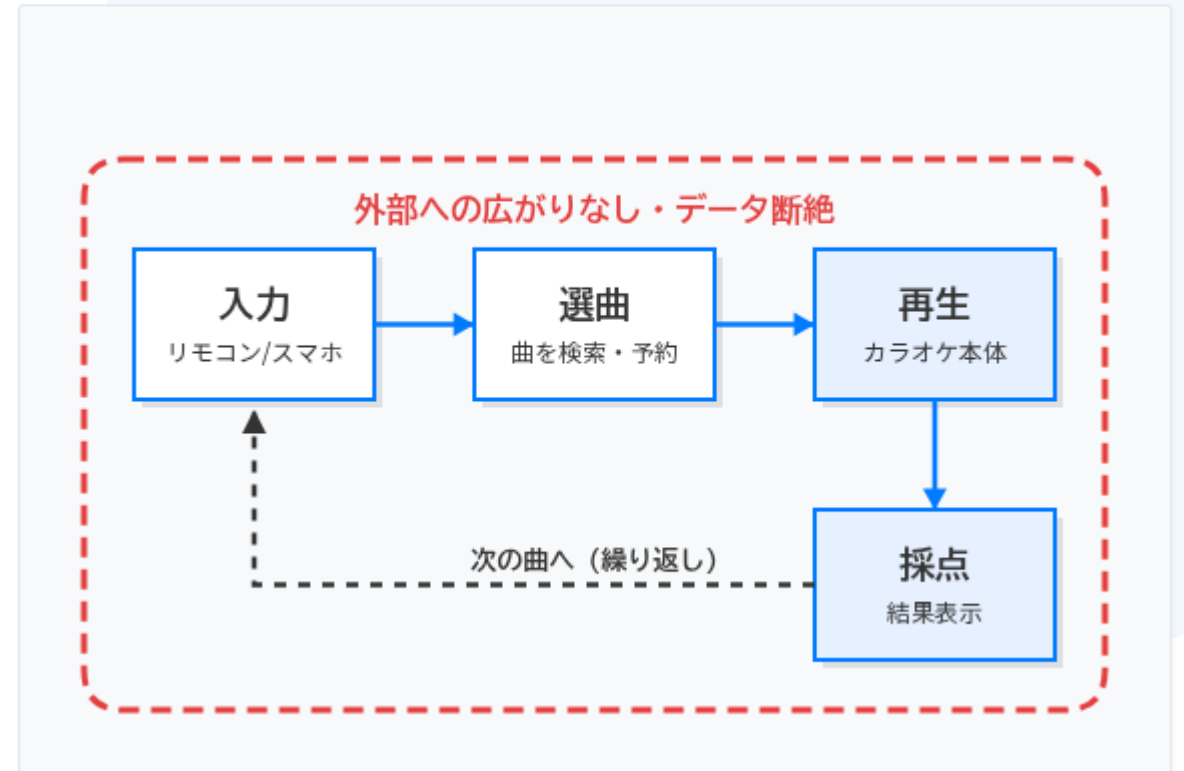


現行選曲端末の構造的課題

今の端末は「高機能だが価値が薄い」

観点	現在の課題
UX	曲を探す行為自体が目的化してしまっている
体験	「個人の歌唱」のみでグループ体験の設計がない
収益	部屋の滞在時間（ルーム料金）に依存するモデル
データ	履歴や採点結果など、活用先が限定的

→ 「歌う」以外の価値を作れていない



図：現行端末の閉じた情報サイクル

問題の本質足りないのは「場を設計する視点」

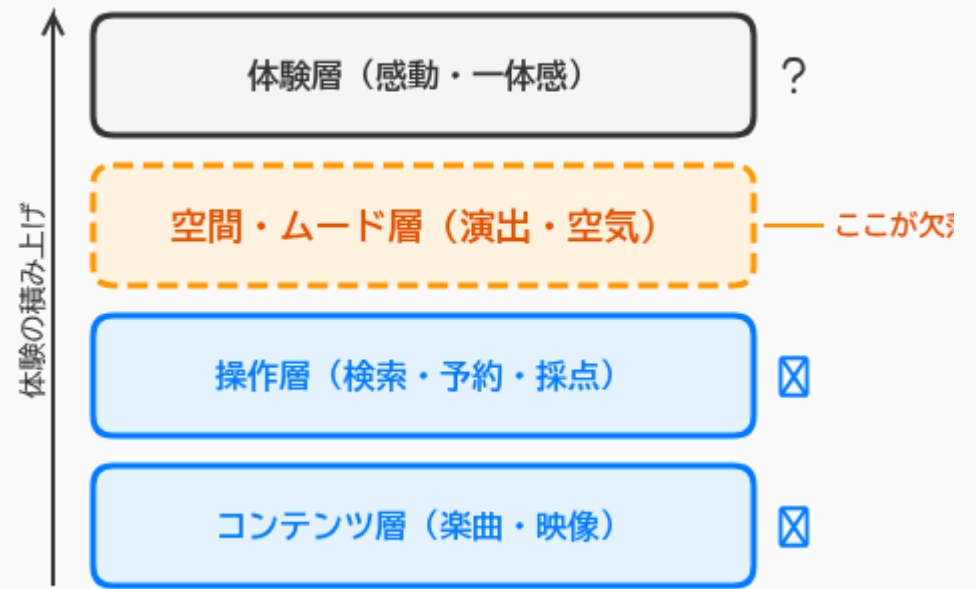
現在のカラオケ機器は、機能面では既に完成の域に達しています。
しかし、「歌う」という行為を取り巻く「空間」や「空気感」への介入は未だ手付かずの状態です。

- ✔ 楽曲数は既に十分（飽和状態）
- ✔ 採点機能の精度も極めて高い
- ✔ ディスプレイも大型化・高画質化済み

➔ 本当の課題は「端末スペック」ではない

“ 問い

これからの端末は、単なるプレーヤーではなく『体験の演出家』になれるか？



コンセプト定義

選曲端末ではなく
「体験オーケストレーター」へ

これまでの端末は単なる「曲の再生機」でした。
次世代端末は、その場にいる誰が・いつ・どんな空気でも過ごすかを統合的に制御する「場のOS」へと進化します。歌唱機能は、その体験の一部に過ぎません。



IoT連携による空間演出イメージ：楽曲のムードに合わせて照明と映像が連動

🤖 役割：統合制御

場の空気・演出の指揮者

選曲だけでなく、曲順の最適化、照明の色や光量、スモークや映像演出までをIoT連携で一元管理。

AIが「今の盛り上がり」をリアルタイムで読み取り、最適な演出シナリオを自動実行します。

💎 価値：体験最大化

摩擦ゼロの没入体験

「次何歌う？」という選曲の悩みや、場の空気に合わない曲を入れてしまう不安（心理的摩擦）を解消。

参加者全員の居心地の良さを最適化し、グループ全体の満足度と滞在価値（LTV）を最大化します。

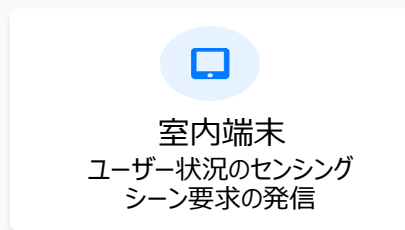
役割の再定義 Before / After

これまでのカラオケ端末は「曲を選んで再生する」ための単なるプレーヤーでした。次世代端末は、その役割を根本から刷新し、空間全体を制御する「体験オーケストレーター」へと進化します。

ユーザーは複雑な操作から解放され、AIとIoTが連携することで、最適なタイミングで最適な演出が自動的に提供される新たな体験層を創出します。

比較視点	従来 (Before)	次世代 (After)
提供価値	曲を選ばせる	シーンを選ばせる
体験主体	個人操作中心	グループ体験中心
UI設計	操作UI (機能ベース)	空間制御UI (体験ベース)
システム	ハード主導	クラウド主導

🛠️ 次世代システムの制御フローイメージ



中核機能①： 体験シナリオ型UI

曲ではなく「シーン」を選ぶ



🔪 シーンの定義と自動起動

「盛り上げ」「デート」「終盤」などのボタンを押すだけで、その場の空気に最適な楽曲リスト、照明演出、音響設定が一括で展開されます。

ユーザーは膨大な楽曲リストから探す手間から解放され、直感的に「場の空気」をコントロールできます。

🤖 バックグラウンドAI選曲

選曲はAIが代行します。指定されたシーンに基づき、BPM（テンポ）、キー、参加者の年代構成、トレンド人気度をリアルタイム解析。

場の流れを途切れさせない最適な楽曲を裏側で自動的にキューイングし続けます。

👥 グループ反応学習

マイク入力から歓声の大きさを、曲間の歌唱回し速度（回転率）をセンシング。

そのグループ特有の「盛り上がりパターン」や「好みのジャンル傾向」を学習し、次回利用時のシーン提案や選曲精度を継続的に向上させます。



中核機能② AIグループ最適化

👁️ AIが見る情報

コンテキスト認識：参加者の年代・性別・人数をカメラとマイクで認識

履歴データ解析：過去の選曲傾向と「盛り上がった曲」の学習データ

リアルタイム感情値：現在の室内の熱量（音声・拍手・動作）

🎛️ AIが制御すること

選曲順序の最適化：場の空気を読んで「次に誰が何を歌うべきか」を提案

キー自動調整：歌手の音域に合わせてキーをオートチューニング

参加促進：デュエットや全員合唱のタイミングを指示



現在の盛り上がりスコア

AIが室内の音量・拍手・動きを解析し、リアルタイムに数値化して可視化

中核機能③： 空間制御 (IoT連携) — 歌に合わせて「部屋が反応する」

従来の「歌うための機械」から脱却し、楽曲データとルーム環境をリアルタイムに連動させることで、「演出空間」を創造します。BPM、ジャンル、歌詞の感情スコアを解析し、照明や映像、空調までもが自動で最適化されます。

導入メリット

- 🎵 演出一体感
曲の盛り上がり（サビ）に合わせて照明・スモークが自動連動。
- 🎧 没入感の最大化
バラードでは暗転、EDMではストロボなど、世界観に浸れる空間。
- 📷 SNS映えの創出
常に変化するフォトジェニックな空間が、シェア行動を誘発。

Concept: 手動操作不要。選曲するだけで、プロの照明演出が自動実行される体験。

🔗 制御マトリクス

対象デバイス	自動制御内容
💡 照明 (Lighting)	BPM連動点滅、曲調によるカラー変更 (悲しい曲 = 青、激しい曲 = 赤)
📺 映像 (Visual)	歌詞連動エフェクト、歌唱者フォーカス映像、壁面プロジェクション
🔊 音響 (Sound)	ライブ会場エフェクト、個人別音質補正、サラウンド制御
🌀 空調 (Air)	熱気 (室温・CO2) 検知による快適度調整、アロマ噴霧

🔗 デバイス連携イメージ



スマホと端末の役割分担

主役はスマホ、端末は司令塔



スマートフォン

個人の好みや履歴に基づき、「自分専用」の操作環境を提供。選曲ストレスを最小化します。

個人設定・履歴管理

手元での選曲・予約

決済・割り勘機能

SNS連携・シェア



室内端末 (IoT Hub)

空間全体の演出を統括する「司令塔」。個々のリクエストを調停・実行。

全体演出・シーン制御

IoT機器（照明・空調）操

作

現在の状況・順番可視

化

グループ全体の雰囲気調整



クラウド (AI Brain)

膨大なデータから「最適解」を導き出し、リアルタイムに場を支援する智能基盤です。

AI楽曲レコメンデーション

行動データ学習・分析

マルチデバイス同期基盤

外部サービス連携API

システム連携・信号フロー



事業価値・収益モデル

従来の「時間貸し+飲食」モデルから脱却し、「体験価値」と「データ」による多層的な収益構造（レイヤー構造）へ転換します。

★ 体験モード課金

「押し活パック」「記念日演出」「ライブ再現」など、特別な空間演出への都度課金（マイクロランザクション）。

🎧 AI歌唱コーチ（サブスク）

個人の歌唱データを分析し、上達のためのパーソナルレッスンを提供。月額会員モデル。

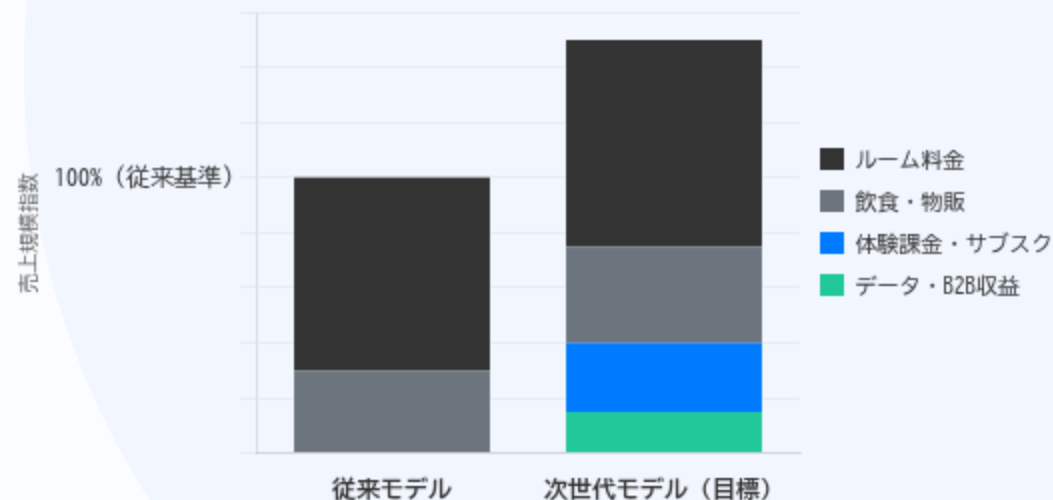
📊 行動データ活用（B2B）

ルーム内の盛り上がりデータや属性データを匿名化し、飲料メーカーや楽曲版元へマーケティング提供。

🛒 EC・グッズ連携

アーティスト映像と連動した限定グッズの即時販売。O2Oコマースのハブ化。

売上構成比の変化（イメージ）



📈 顧客生涯価値（LTV）の最大化

体験満足度の向上が全ての変数を押し上げる



ロードマップと結論

次世代端末の導入は、単なる機器の入れ替えではなく、顧客体験の質的転換を意味します。

既存のインフラを活かしつつ、段階的に「体験オーケストレーション」機能を開放することで、現場の混乱を避けながら確実な収益化を実現するロードマップを策定しました。



現実的な導入ステップ

- Step 1. シーンUI導入 直感的な操作性で即座に他店との差別化を実現
- Step 2. AI推薦強化 グループの空気を読み、選曲ストレスをゼロに
- Step 3. IoT連携 照明・空調と連動し、空間全体を演出装置化
- Step 4. データ事業展開 行動データを活用したB2Bマーケティング収益化

結論

次世代カラオケ端末の本質とは

「機械の進化」ではなく「体験設計の進化」である